



第2部 公務員試験を知ろう！



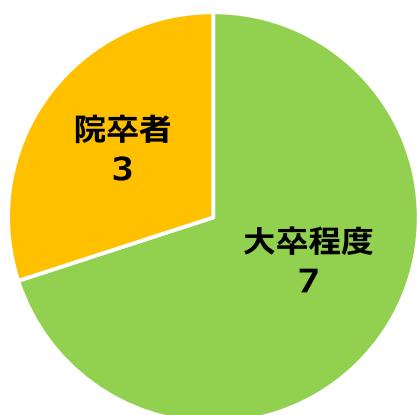
第2部 公務員試験を知ろう！

第2部では、内定者10名による国家公務員総合職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、令和7年度入省内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。

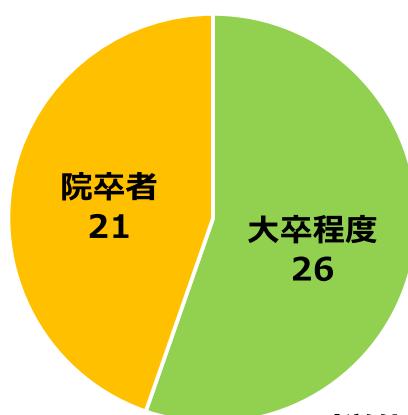
また、第1部同様に総合職内定者10人の体験談を紹介しています。勉強方法や勉強スケジュール等については、内定者個人の見解ですので、ご参考までにご覧いただければ幸いです。

□ 試験区分

令和7年度入省予定内定者



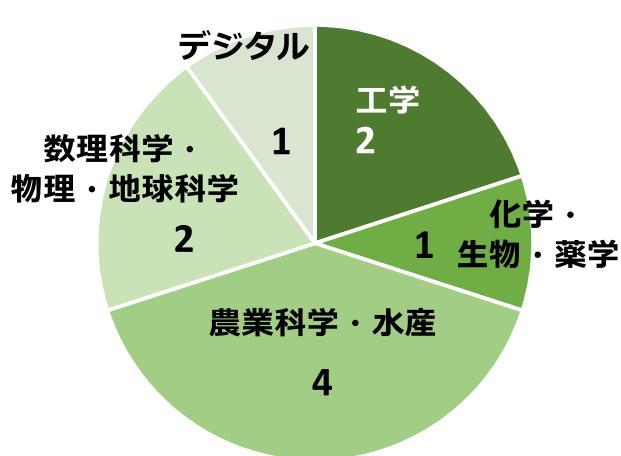
過去5年間



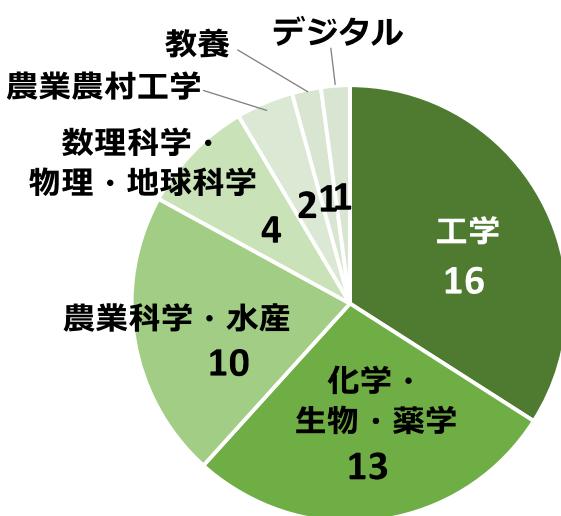
(単位：人)

□ 試験の種類 大卒程度/院卒者

令和7年度入省予定内定者



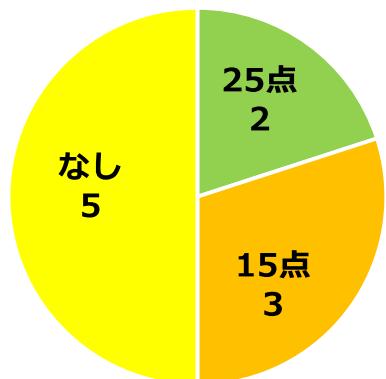
過去5年間



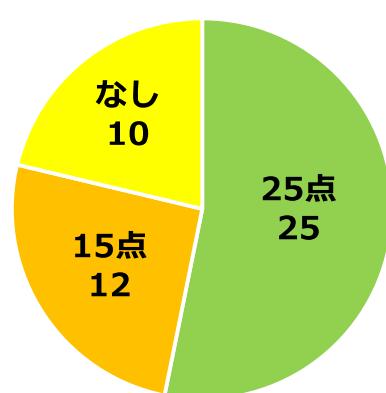
(単位：人)

□ 英語加点の有無

令和7年度入省予定内定者



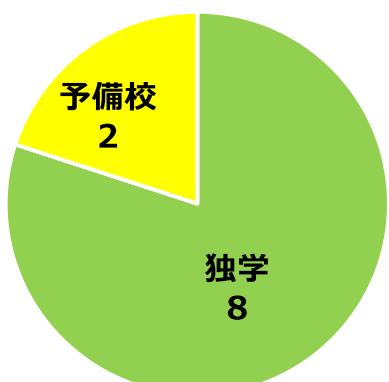
過去5年間



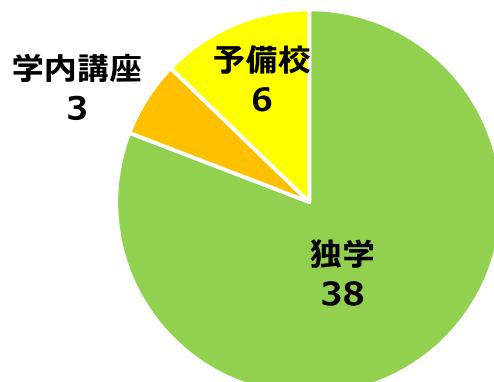
(単位：人)

□ 勉強方法

令和7年度入省予定内定者



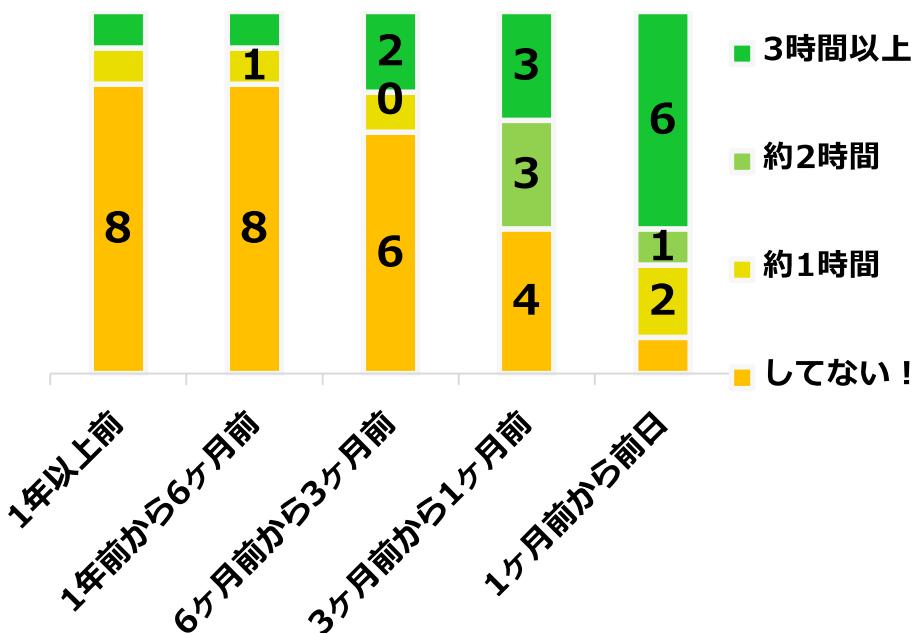
過去5年間



(単位：人)

□ 1次試験までの勉強時間

時期別の1日あたり勉強時間



- 3時間以上
- 約2時間
- 約1時間
- していない！



□ 国家公務員総合職試験の概要

試験区分には、大卒程度試験と院卒者試験の2区分に加え、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「1次試験（マーク式試験）」、「2次試験（記述式試験 + 政策試験 + 人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

2015年度の試験から、所持しているTOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算されるようになりました。例えばTOEICなら600点以上で15点の追加、730点以上で25点の追加です。詳細は人事院のWebサイトをご確認下さい。

1次試験

基礎能力試験

いわゆるマーク式の教養試験で、配点は2/15です。問題は多岐に渡り、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識などが試されます。出題数は大卒、院卒ともに30題です。

専門試験（多岐選択式）

選択した専門科目の知識が試されるマーク式の試験で、配点は3/15です。大卒も院卒も共通の40題ですが、試験区分により形式が異なるため確認が必要です。

2次試験

専門試験（記述式）

専門科目について記述式で回答する試験で、配点は5/15と最も高いです。基本的には複数の分野から1~2問選択して回答します。理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。

政策論文（大卒程度）

専門試験と同じ日に行われる試験で、配点は2/15です。出題されたテーマに対し、与えられた3つの資料を使いながら、A4裏表1枚に自分の考えをまとめています。配布資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

政策課題討議（院卒者）

専門試験とは別の日に行われる試験で、配点は2/15です。配布される和文・英文の資料に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。グループ全員にレジュメを配布し、意見発表、集団討論、もう一度発表、という手順で行います。

人事院面接

当日までに面接カードを記入して、その内容に沿って質問される個人面接です。配点は3/15です。面接時間はおおよそ10~20分程度で、面接官は3人です。

官庁訪問

見事2次試験を突破し、最終合格した人は採用名簿に掲載され、官庁訪問を受けることが可能になります！ 最終合格=採用ではなく、採用されるためには官庁訪問で各府省から個別に内定を得る必要があります。名簿は5年間有効（2022年度までに合格された方は3年間有効）かつ、技術系区分では既合格者向けに追加で官庁訪問の機会もあるため、少しでも興味があれば、前年度から積極的に試験を受験することをおすすめします。

官庁訪問の詳細については第3部で説明します。

No.1 ぱんだ2

試験区分：工学（大卒）

合格年度：2023年度

出身大学：東京都/理学系研究科/地球惑星科学専攻

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

月 科目	2023年					2024年			1次試験	2次試験	2次面接
	4	5	6	7	8	9	4	5			
学年	B4						M1				
教養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門1次	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
専門2次	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0
論文/討議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

院試対策がそのまま専門1次と専門2次の試験対策になりました。人事院のWebサイト上に前年度試験の過去問題が掲載されているので、どのような分野から出題されるのか事前に確認しておくとよいと思います。

□ 各試験の勉強量バランス

専門

100

特別な対策はしませんでした。政策論文と人事院面接について詳しくはないですが、普段、日常生活や現代社会における様々な課題について考えていることを基に、書いたり話したりすれば大丈夫だと思います。

□ 試験結果

英語加点：なし

Success !!

何かと崩れがちな生活習慣を、試験数日前から整えはじめ、早寝早起きができるようになりました。試験当日の朝は早いので、早起きする練習をしておいてよかったです。

Failure ...

外部英語試験を事前に受験しておけば、合否判定の際に加点されて有利になるということを試験当日に知りました。経済的に余裕がある人は、外部英語試験を受験しておくとよいと思います。

□ 利用してよかったもの

- ・『演習 応用解析』
- ・『基幹講座 物理学 力学』
- ・『基幹講座 物理学 解析力学』

□ 各試験の具体的な対策

教養

人事院のWebサイトに掲載されている過去問題を閲覧し、事前に、出題分野や出題形式を確認しました。

専門1次

基礎数学・情報数学、基礎物理・地球科学、解析・計算機数学・数値計算・物理数学・古典物理学・地球物理学・地質学

数学と物理、地球科学について、おおよそ学部2回生までに学習しておくべき内容から出題されます。各分野の基礎的な教科書を読んだり、演習書で問題演習をしたりすることを通じて幅広く対策をしました。

専門2次

地質学

いくつかの科目の中から2つの問題を選択して解答する形式なので、あらかじめ選択する科目を決めておけば、その科目に絞って対策を進めることができます。当日、別の科目の問題の方が簡単そうだったので解答する科目を急遽変更しました。広く深く対策する方がよいと感じました。

政策論文

特に対策していません。

人事院面接

特に対策していません。

No2. 緑茶

試験区分：工学（大卒）

合格年度：2022年度

出身大学：北海道/工学院/環境創生工学専攻

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2022年								2024年		
	4	5	5	6	7	8	4	5	6		
1次試験 2次試験 2次面接											
学年	B4						M2				
教養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門1次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門2次	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
論文/討議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
官庁訪問											

修士1年での受験を見据えていたので、学部4年で一次試験を突破するとは思ってもいませんでした。一次試験を突破できたのは、大学受験や学科の授業で得た知識があったからだと思います。専門二次試験は2週間しか準備する時間がなかったですが、過去問をうまく利用して出題傾向を把握できたおかげで突破できました。

□ 各試験の勉強量バランス

専門

100

試験対策は専門二次試験のみ行いました。15年分の過去問を利用し、2分野のみを徹底的に対策しました。出題頻度の高い問題から順番に対策したのもよかったです。面接は志望理由等がすらすらと頭の中に出てくるか整理しました。

□ 試験結果

英語加点：あり（25点）

Success !!

専門二次の対策は徹底的に行いました。過去問を15年分できたのが良かったと思います。また、自らの学科の知識を専門科目で使うことが出来たのは良かったと思います。大学の授業を真面目に取り組んだおかげでした。

Failure ...

急遽受験することになり受かると思っていなかったので、当日も試験科目を把握できませんでした。反省しています。試験時間が長かったのが功を奏したと思います。

□ 利用してよかったもの

- ・過去問

□ 各試験の具体的な対策

教養

一次試験の対策は行っていないので具体的な対策はありませんが、実際に試験を受けてみた体感では、限られた時間の中で数的処理問題をうまく短時間で多く解ききれるかが一次試験を突破する上で重要だったと思います。

専門1次

技術論、構造力学、土質力学・水理学、環境工学・衛生工学、熱力学・熱機関

一次試験の対策は行っていないので具体的な対策はありませんが、大学で所属している学科が環境社会工学科だったので、授業で学んだ構造力学や流体工学などの知識をもとに問題を解くことが出来ました。基礎的な知識を聞く問題も多かつたので乗り切ることが出来たのかなと思います。

専門2次

熱力学分野、上下水道分野

過去問の出題傾向を把握し、出題頻度の高いものから順番に回答を作成しました。上下水道分野は記述式の問題だったので、解答に必要となる要素とその意味を把握し、要素漏れが無いように注意しました。熱力学分野は計算の問題が多かったので、解答に必要となる公式等を自力で導けるかどうかを重点的に確認しました。

政策論文

政策論文は無難な回答を心がけました。また、自らが課題であると考えた内容に対して、その原因と考えられる事象とその改善策について、読者を説得できるような論理的でかつ飛躍のない内容を心がけました。過去問などの具体的な対策は行いませんでした。

人事院面接

志望理由や研究内容に関して、面接カードに記入した内容を相手にわかりやすく説明できるように、段落に分けて整理しながら話す練習を行いました。面接練習は行いませんでした。

No.3 葉っぱ

試験区分：数理科学・物理・地球科学（院卒）
 合格年度：2024年度
 出身大学：愛知県/環境学研究科/地球環境科学専攻

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

	2022年			2023年			2024年			
月	2	3	4	5	2	3	4	5	6	
1次試験 2次試験 1次試験 2次試験 2次面接 官庁訪問										
学年	M1		M2			M3				
教養	2	1	1	0	0	1	0	0	0	
専門1次	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
専門2次	0	0	1	1	0	0	2	0	0	
論文/討議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
面接	0	0	0	0	0	0	0	1	0	

修士2年でとりあえず来年のためにも…という気持ちで試験を受けてみましたが、落ちました。終始研究優先だったので、もっと試験勉強をしておくべきだったなあというスケジュールです。少なくとも年明けから1日平均4、5時間くらいはやっておくと安心できただろうなと思います。

□ 各試験の勉強量バランス

論文討議
/ 2



とりやすいであろう教養と、配点の高い専門に注力しました。特に専門は一次二次ともに勉強する内容は同じだったので比較的力を入れました。政策討議と面接はあまり対策していませんでした。

□ 試験結果

英語加点：あり（15点）

Success !!

英語加点は試験前から既に点数を持っているようなものなので、安心材料としても合格のためにもあってよかったです。なくとも試験で点数が取れれば全然問題なく合格できると思いま

Failure ...

計画的に十分な量の勉強をするべきでした。

□ 利用してよかったもの

- ・高校と大学で使用した教科書や専門書
- ・過去問
- ・ネット検索

□ 各試験の具体的な対策

教養

人事院から取り寄せた過去問と、本屋さんでよく見る有名そうな参考書を分野ごとに1冊ずつやりました。私は今までの受験勉強と同じように勉強しました。あなたも今まで培ってきた勉強法で大丈夫だと思います。また、私は対策する時間がなかったため、時事問題は勉強しないなどの取捨選択も行いました。

専門1次

基礎数学・情報数学、基礎物理・地球科学、地質学

まず自分が解く選択科目の過去問をみて、出題された問題の分野とさらにもう一段階細かい分野をリストアップしました。次にその細かい分野ごとに、過去問で出題された問題を軸に、関連する内容を派生させていくように勉強しました。基本的には1つの参考書を中心に、他の参考書やネット検索を補助として使いました。わからないことは全て理解し、完璧に説明できるようにしました。全ての分野をこのようにして勉強しました。

専門2次

地質学×2

専門は1次も2次も区別せず勉強しました。勉強時間が少なくて専門1次で書いた対策は少ししかできませんでした。もしもできていたら、ほとんどの問題を解けていただろうなど、試験後に思いました。科目は地球科学の一点張りでした。ネット検索はネットリテラシーが必要ですが、過去問に出てきた知らない用語を効率的に勉強することに役立ちました。

政策討議

特にこれといった対策をしていません。ただ結果的には、大学の講義や研究室のゼミなどでのグループディスカッションや質疑応答で培った経験が十分な対策になっていたと感じました。相手の意見を尊重することと、言葉選びには気を付けましたが、私は討議を楽しむことができました。また、初めての受験ではレジュメがグループ全員に配されることを知らなかつたため、他人に見せるつもりのない見にくいレジュメを作成してしまいました。

人事院面接

こちらも特にこれといった対策をしていません。イメージトレーニングを極めれば対応できると思い込むようにしていました。私は特に面接に対して苦手意識はないので、無難に終えたなという感想でした。面接官との相性も多少はありますが、面接に対して必要以上に身構えたり、緊張したりする必要はありません。

No.4 焦チズケ

試験区分：デジタル（大卒）

合格年度：2023年度

出身大学：東京都/工学院/情報通信系エンジニアリングコース

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

	2023年			2023年			2024年			
月 科目	1	2	3	4	5	6	5	4	5	6
1次試験 専門2次 政策討議 官庁訪問										
学年	B4			M1			M2			
教養	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
専門1次	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
専門2次	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
論文/討議	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0
面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

腕試しの気分で受けた面もあり、かなり短期集中型だし時間も短めです。とはいっても、少ない時間でやるべきことはこなせていたかなという印象です。2次にいたっては受けられると思っていたなかつたのもあり、自分の得意と苦手を分析してかなり効率よくやる必要がありました。結局は大学でしっかりと講義を聞いていたことに救われました。

□ 各試験の勉強量バランス



一次は教養と専門一対一でやりました。試験結果からみて自分にとっては最も配分だったなと思います。二次は一番時間をかけたところが出題されたり、得意なところが出題されたりで、正直出題の運に助けられました。

□ 試験結果

英語加点：15点

Success !!

来年もあるし腕試しで受けてみるかと受けてみたのが良かったです。正直出題の運に助けられたところがあるのでタイミングが良かったんだなと思います。

Failure ...

急遽受験することになったので、時間をかけられなかったのが反省点です。

□ 利用してよかったもの

- ・『キタミ式イラストIT塾基本情報技術者』
- ・『国家総合職 教養試験 過去問500』

□ 各試験の具体的な対策

教養

過去問演習を解きまくりました。英文を長らく読んでなかつたので勘を取り戻す感じで勉強しました。初見で解いたときに、数的処理が一番伸びしろがあると判断してとても時間を割きました。知識分野は最初時間をかけていたんですが、あまりにも効率とそれによる得点が見合わないと判断し、後半は全くやりませんでした。総じて処理速度をあげることに時間を使いました。

専門1次

基礎数学、情報基礎、情報と社会、計算機科学、情報工学（ハードウェア）、情報工学（ソフトウェア）、情報技術、通信工学

過去問を3周ほど解いたり、情報技術者の参考書を読んだりして、知識を思い返す感じの勉強を行いました。計算機科学、ハードウェア両方にかかる回路関係の復習に時間をかけていたのが専門二次にも役立ちました。総じて学部時代に真面目に授業を受けていたのが良かったです。

専門2次

計算機科学、ハードウェア（選択×2）、ソフトウェア、情報技術

試験問題の傾向からうろ覚えだった電気回路を復習するのにかなり時間を使いました。逆に知識問題は時間がない中詰め込んでも間に合わないと判断し、基礎があれば発想と応用で何とかなる部分だけを勉強しました。結果的にこれが功を奏しました。

政策論文

ニュースやネットでどの分野が話題になっているかなどの調べを行いました。過去のテーマを見て自分なら何を軸にするか考える等はしましたが文章を書くことの対策は特別やりませんでした。いかに読み手に自身の主張をわかりやすく伝えられるかが見られるだろうと考え、長々と文章を書いてしまう癖があるので、分かりやすいように文章を区切って明瞭に書くように気付けました。

人事院面接

面接カードの内容を思い返せるようにしました。面接カードの自身のエピソードが話せる部分については事前にどのように伝えるのか事前に想定して、当日焦らないようにしました。面接練習をすることがほぼできなかつたため、とにかく落ち着いて慌てず面接に望むことを意識しました。

NO. 5 とんかつ

試験区分：化学・生物・薬学（大卒）

合格年度：2023年度

出身大学：東京都/先進理工学研究科/化学・生命化学専攻

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2023年					2024年			
	月	12	1	2	3	4	5	4	5
教養	B4					M2			
教養	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	0	0
専門1次	0	0	2	4	0	0	0	0	0
専門2次	0	0	0	0	5	0	0	0	0
論文/討議	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0
面接	0	0	0	0	0	0	0	1	0

研究しながらだと試験勉強に割ける時間がないので、卒論が終わって落ち着いたタイミングで本格始動しました。集中型のスケジュールになったのは反省ですが、これ以上の時間は割けなかったので、最善は尽くしたかなと思います。正直、今年落ちても来年もう一回チャンスあるし…くらいの気持ちを受けました。

□ 各試験の勉強量バランス



最初は教養から始めましたが、得点配分に気付き、試験直前は専門にリソースを全投資しました。とはいえ、教養のせいで一次試験はボーダーギリギリだったし、二次の政策論文もボロボロだったので、もう少し対策は必要だったかなと反省しています。

□ 試験結果

英語加点：あり（25点）

Success !!

英語加点がなかったら落ちていきました。専門に集中したおかげで、2次筆記ではほぼ満点をとれて、ギリギリ合格点届きました。
過去問演習は大事です。

Failure ...

全体的に余裕がなさ過ぎました。特に政策論文は、実際に文章を書く練習をするべきだったと試験中に後悔しました。

□ 利用してよかつたもの

- 『アトキンス物理化学(上・下)』
- 開示請求した過去問
- TOEIC

□ 各試験の具体的な対策

教養

過去問演習中心です。文章理解は得意だったので、あまり演習していません。わからない英単語の復習はしました。判断・数的処理が鬼門なので、重点的に問題演習を繰り返しました。知識分野は過去問以外やっていません。総じて教養は、文章理解と判断・数的処理で点を稼いでボーダーを狙う作戦の勉強方法でした。

専門1次

①数学・物理、②基礎物理化学・基礎無機化学、③物理化学・無機化学、④有機化学、⑤工業化学・化学工学、⑥分析化学・薬化学

古い過去問から解いて、問題の周辺知識を専門書で復習する流れで勉強を進めました。学部生時代にそれなりに勉強していたこともあります、短時間である程度仕上がったかなと思います。初めの10問は簡単なので、絶対に落とさないことを意識していました。⑤工業化学・化学工学、⑥分析化学・薬化学は、今まで勉強してこなかった分野だったので、捨て気味でしたが、私はこの分野の一問の正解に救われたのも正直な所です。

専門2次

物理化学×2

同様に過去問演習です。わからない問題はいくら考えてもわからないので、『アトキンス物理化学』とにらめっこし、解答を作りました。院試勉強をする（した）人なら、だいぶアドバンテージができると思います。得意分野である物理化学が何故か2問あり、助かりました。

政策論文

対策時間が取れず、過去のテーマをざっと見ただけとなってしまいました。無対策だったので問題の出され方もわからず、本番で英文1つと和文2つを読まされて、時間配分が大変だったのを覚えています。文章を読みながら書くポイントを絞って、及第点狙いで乗り切りました。

人事院面接

面接カードをもとに、考え方を3回くらい深堀っておいて、先輩に簡易的に面接練習してもらいました。自分の考え方を自分の言葉で話せるように練習しました。就職活動で初めての面接だったので緊張しました。

No.6 えだまめ

試験区分：農業科学・水産
合格年度：2024年度
出身大学：東京都/海洋環境学部/海洋環境科学科

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2023年				2024年				
	10	11	12	1	2	3	4	5	6
1次試験 専門2次 論文,討議 官庁訪問									
学年	B3					B4			
教養	0	0	0	0	0	1	0	0	0
専門1次	0	0	0	0	0	1	0	0	0
専門2次	0	0	0	0	0	0	1	0	0
論文/討議	0	0	0	0	0	0	1	0	0
面接	0	0	0	0	0	0	2	0	0

研究活動と両立しつつ、学部3年生の3月頃から勉強に取り組みました。4月頃からキャリア支援センターに相談しつつ、自己分析を深めて面接対策に取り組みました。

□ 各試験の勉強量バランス



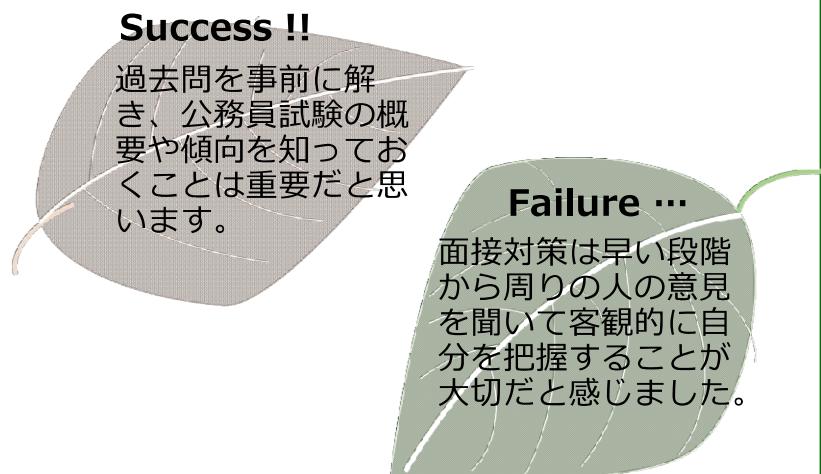
教養については問題数の多い数的処理対策が最も重要なと思います。専門については大学の講義内容と重なるため日々の授業が大切だと思います。

□ 試験結果

英語加点：なし

□ 利用してよかつたもの

- 過去問



□ 各試験の具体的な対策

教養

数的処理が最も占める割合が高いため、過去問を解いて解法のプロセスを他者に説明できるまで理解するようにしました。時事問題も数問出題されるため、電車移動のスマホを見る時間でニュースを意識的に見るようになりました。英語の文章問題も出題されるため、公務員試験対策中も普段のTOEIC勉強を継続しました。

専門1次

水産経済学・水産経営学、漁政、水産海洋学・水産環境保全、水産生物学・増養殖学、水産一般

普段何気なく受けている大学の講義は、非常に大切だと思います。まず過去問を解き、どのような問題が出題されるのか確認しました。そこから、試験問題は大学の講義内容と重なる部分が多いと実感したので、大学の講義で使用したプリントを復習することで、抜けている知識を再確認しました。水産経済学が苦手であったため、特に時間を割きました。

専門2次

水産海洋学、水産海洋保全

『水産白書』や『水産海洋ハンドブック』が水産分野のすべてをまとめてくれているので活用できると良いと思います。すべて読み込むには量が多すぎるため、苦手分野の用語のみを確認し、知らない単語は自分でノートにまとめるようにしました。私は苦手な水産海洋学を確認しました。試験直前は、それらの単語を実際に自分で説明できるかチェックすることで、対策をしました。

政策論文

電車移動のスマホを見る時間でニュースを見ていました。その際、記事を読んで、知識をつけるだけではなく、内容を深掘りするようにしていました。具体的には、記事の中で疑問に思ったことを追加して調べたり、自分の意見をメモに記載したりすることによって、記述力や思考力を鍛えました。

人事院面接

身の回りの人から多くの意見を聞いて、自分を客観的に捉えるようにしました。質問内容は、就職想定質問一覧をインターネットで調べ、それらに対して自分専用の想定問答集をつくって対策しました。キャリア支援センターの方にお願いして、実際に模擬面接をしていただけたのが非常に良い練習になりました。

NO. 7 な

試験区分：工学（院卒）
合格年度：2024年度
出身大学：北海道/工学院/環境創生工学

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2023年					2024年				
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
1次試験 専門2次 2次面接 官庁訪問										
学年　社会人5年目	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
教養	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
専門1次	0	0	10	10	12	8	0	0	0	
専門2次	0	0	0	0	0	2	5	0	0	
論文/討議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

12月頭に国家公務員試験を受けることを決め、年末年始の休みから勉強を始めました。平日は残業や出張があって勉強時間が取れなかつたのと、土日も片方は飲みに行ったり外出していたので、試験直前も含めて勉強は週1日程度でした。代わりにその1日は12時間くらい勉強していました。

□ 各試験の勉強量バランス



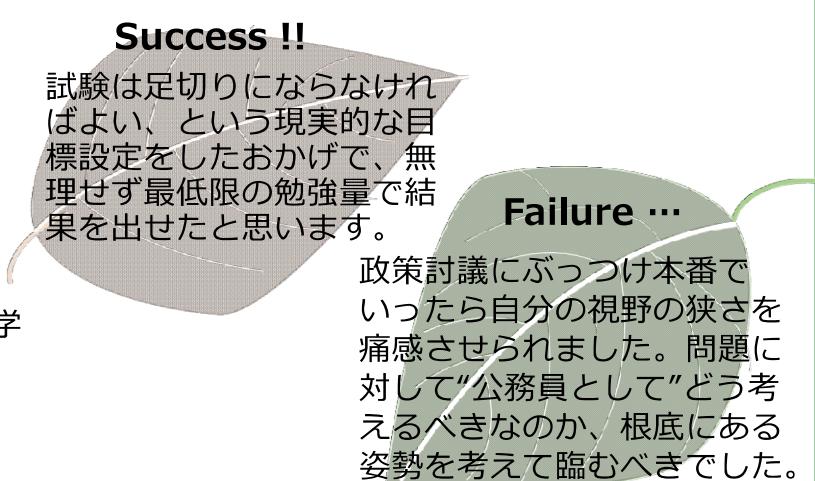
試験範囲をすべてカバーする時間はなかったので、最初に無勉強で何割正答できるのか過去問で確認し、どの分野を勉強するのが効率的か戦略を練りました。専門二次の基礎にもなるので専門一次の内容を重点的に勉強しました。

□ 試験結果

英語加点：なし

□ 利用してよかつたもの

- ・『スーパー過去問ゼミ』（工学の基礎、土木、機械）
- ・院試勉強のノート



□ 各試験の具体的な対策

教養

最新の過去問1年分を時間を計りながら解いて、スピード感を把握しました。出題範囲が広すぎる所以コスパが悪いと判断し、ほとんど対策はしませんでした。最低限、解法の型がある問題の把握と、過去問500に載っている理系問題だけ2、3周しました。

専門1次

流体力学[機械系]、環境工学（土木）・衛生工学、構造力学（建築）、機械力学、熱力学・熱機関[機械系]

選択科目を何にするか当たりを付けて、『スーパー過去問ゼミ』（工学の基礎、土木、機械）を購入しました。解けなかった問題に印をつけて、解けるまで何周もして、解法を自分の中に定着させました。苦手な問題は6周くらいしたと思います。大学時代に理解できていなかつたことが、現職を通して腑に落ちた分野があって、どんな経験も糧になっているのだなと嬉しくなりました。

専門2次

熱力学・熱機関[機械系]、環境工学（土木）・衛生工学

人事院から過去問を取り寄せる時間もなかったので、インターネットで院試の過去問を拾ってきて勉強しました。8年前の院試勉強のノートを捨てずに取っておいたお陰で、解答を確認しながら勉強できました。頑張った記念にとっておいたノートでしたが、ここで役に立つとは思いもしませんでした。

政策討議

直前にインターネットで公開されていた対策記事を読んで、流れや注意事項を把握しました。大学の対策講座などを利用できる方は、対人練習をした方が安心できると思います。

人事院面接

対人練習はできないまま、ぶつけ本番でした。現職で年上の方に説明をする機会が多いので、場数は踏めていたのかかもしれません。面接カードは親に添削をしてもらいました。私は人事院面接の日程がGW明けだったので対策の時間が取りやすかったです。しかしどんな日程になるのかは運なので、面接カードの準備は余裕をもって始めた方が安全だと思います。

No.8 はなしろ

試験区分：農業科学・水産

合格年度：2024年度

出身大学：新潟県/農学部/農業科学応用生命科学プログラム

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2023年					2024年				
	月 6~10	11	12	1	2	3	4	5	6	
教養	2	3	3	2	2	2	0	0	0	
専門1次	1	3	3	3	4	4	0	0	0	
専門2次	0	0	0	0	0	4	5	0	0	
論文/討議	0	0	0	0	0	1	2	0	0	
面接	0	0	0	0	1	1	2	2	0	

学部3年の6月から学内講座を利用して対策を始めました。専門は独学で、全て専攻分野でない科目だったこともあり対策が大変でした。そのため過去問の前に参考書を使って確認したことで、問題内容を把握することができて良かったです。ただ過去問はもっと早めに取り組み始めるべきでした。

□ 各試験の勉強量バランス

論文討議
/ 5



教養の勉強量の8割は数的処理で、1月頃からは数的推理の対策のみ行い、他は直前に確認する程度でした。専門は12月頃から過去問を始めました。面接は1月頃から月に1、2回練習をしました。

□ 試験結果

英語加点：なし

Success !!

早めに捨て科目を決めたことです。対策できていないことに後ろめたさを感じていたため、かなり心が軽くなりました。

Failure ...

専門の過去問をもっと早くから始めるべきでした。過去問は5択×40題あるので、1年分を解くだけで200個の知識を得ることができます。自分で調べ解答集を作ついた時が一番得点に繋がりました。

□ 利用してよかったもの

- ・『スーパー過去問ゼミ 農学』
- ・過去問

□ 各試験の具体的な対策

教養

数的処理の、特に数的推理が苦手でした。試験の1か月前からは数的推理に絞つて対策をしました。使用していた問題集を繰り返し3、4回は解いたと思います。最後の方は答えを覚えてしまってましたが、似た解き方の問題はできるようになりました。また、社会科学と日本史、世界史は中学レベルの知識しかなかったので対策をしないことに決め、捨て科目にしました。文章理解は大学入試レベルだったので特に対策はしませんでした。

専門1次

作物学、園芸学、育種遺伝学、植物病理学、昆虫学、土壤肥料学・植物生理学食料政策・農業政策・農業関係法律

自分の専攻分野と被っている専門科目が一つもなかったので、すべて一からの対策でした。始めは参考書を2周して問題内容、傾向を把握し、その後過去問を解きました。解答集を自分で作成していたのですが、かなり時間がかかり過去3年分ほどしか解くことができませんでした。時間がかかることを考慮して、もっと早めに始めるべきでした。余裕をもって過去5～10年分くらいは解けると良いと思います。

専門2次

作物学、食料政策・農業政策

一次試験の自己採点から恐らく二次に進めると思ったので、試験後すぐに対策を始めました。5年分程の過去問を解き、解いていない過去問にも目を通しました。数年おきに似た傾向の問題が出題されていたので、そういう問題は重点的に対策をしました。実際に本番も約4割は過去に出題されていた問題でした。10年分程度の過去問と、専門一次の内容が頭に入っているれば特に問題はないと思います。

政策論文

よく聞かれる議題については解答集を作りました。自分の案だけでは考えに偏りが出ると思い、学内講座やネットでも情報を収集しました。はじめは解答例の真似をして書き、自分が書きやすい文章構成を模索しました。学内講座や模試の論作文は添削してもらいましたが、かなり厳しい採点で精神的ダメージが大きかったです。一方で本試験は優しい採点だと感じました。論文対策で得た知識は面接にも応用できるので、特に力を入れました。

人事院面接

自分のこと（ガクチ力や長所、短所など）について聞かれた際に、1、2個のエピソードに集約するように対策しました。実際に何を聞かれても、ほとんど部活動と研究室の話を持っていくようにしていました。話に一貫性が生まれますし、何より対策がしやすかったです。それに加えて少し話せる程度のエピソードをいくつか用意しておいたので、「他のエピソードは？」といった質問にも対応できました。

No.9 スケトウダラ

試験区分：農業科学水産（院卒）

合格年度：2024年度

出身大学：北海道/水産科学院/海洋生物資源科学

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2023年			2024年					
	10	11	12	1	2	3	4	5	6
1次試験 専門2次 論文,討議 官庁訪問									
学年	M2						M3		
教養	4	4	4	2	2	2	0	0	0
専門1次	2	2	2	4	4	4	0	0	0
専門2次	0	0	0	1	1	1	0	0	0
論文/討議	0	0	0	1	1	2	5	0	0
面接	0	0	1	1	1	1	2	6	6

全体的なスケジュールとしては、各試験前の4か月前から対策を始めるようにしました。総合職試験よりも官庁訪問の方が落とされやすいため、面接対策は年明けから継続的に行うようにしました。今振り返ると専門2次試験は配点が大きいためもっと勉強すべきだったと思います。

□ 各試験の勉強量バランス



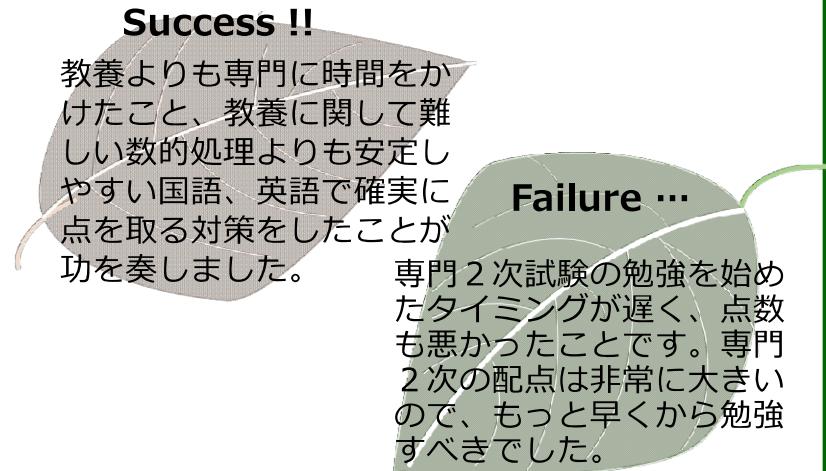
筆記試験に関しては、教養よりも専門の方が配点が高いため専門に時間をかけました。教養は足切りされない程度に勉強しました。総合職試験よりも官庁訪問の方が落とされやすいため、面接対策は年明けから継続的に行うようにしました。

□ 試験結果

英語加点：あり（15点）

□ 利用してよかつたもの

- 『水産白書』
- 『水産海洋ハンドブック』
- 『生協対策講座テキスト』



□ 各試験の具体的な対策

教養

難しい数的処理はあまり勉強せず、点数が安定しやすい国語、英語で確実に点を取る対策をしました。10月から2か月間は『生協対策講座テキスト』の教養問題は3回解きました。12月から1次試験までは過去問10年分を解きました。国語・英語はしっかりと復習をし、数的処理は難しそうな問題は解かず、復習もしませんでした。

専門1次

水産関係

過去問中心で勉強しました。過去問10年分を解いて、『水産白書』か『水産海洋ハンドブック』で答え合わせ＆復習を繰り返しました。間違えた問題に関しては重点的に復習しました。また、水産分野の知識を網羅的に身に着けるために、『水産白書』『水産海洋ハンドブック』それぞれ4回は通じで読んだと思います。

専門2次

生物資源に関する基礎、水産系、水産経済学、漁政、漁業学、水産海洋学、水産一般

専門1次と同じで、過去問を解いて、『水産白書』か『水産海洋ハンドブック』で答え合わせ＆復習を繰り返しました。専門2次は記述問題のため、詳しい友達に自分の回答を添削してもらうなどして対策していました。専門2次は1次試験からの期間が短いわりに、配点が大きいので1次試験の前からも対策を始めました。

政策討議

大学生協の対策講座に参加して対策しました。全15回、参加生徒と本番形式で練習できるので、本番ではどういう質問が来るのか？どう答えたら相手が納得するのか？などを身をもって知ることができ非常に役立ちました。対策講座はどの大学の生徒も参加できるので、ぜひ活用すべきです。

人事院面接

面接カードに書いたことを深く話せるように話す練習を重ねました。学内講座の先生方に模擬面接をしていただいてブラッシュアップしていました。約15分の短い面接の中で、人によって面接カード全体を広く浅く聞かれた人もいれば、特定の部分を深く聞かれた人もいたようなので、どこを深掘りされても困らないようにしておく必要があると思います。

No.10 青色のえび

試験区分：農業科学・水産（大卒）

合格年度：2024年度

出身大学：東京都/海洋資源環境学部/海洋環境
科学科

□ 勉強スケジュール

1日の勉強時間（時間）

科目	2023年			2024年					
	月	10	11	12	1	2	3	4	5
1次試験 専門2次 論文、討議 官庁訪問									
学年	B3						B4		
教養	0	0.5	1	4	4	3	0	0	0
専門1次	0	0	1	1	1	2	0	0	0
専門2次	0	0	0	0.5	0.5	0	5	0	0
論文/討議	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0

比較的自由に時間を使える研究室に所属していたため、学部3年の11月末から官庁訪問終了まで公務員試験勉強に集中することができました。専門試験の内容は大学の講義で扱った分野が多かったため、どちらかというと専門よりも教養(数的処理)の勉強に力を入れました。

□ 各試験の勉強量バランス



数学がとても苦手で、教養試験の勉強はほとんど数的処理の対策を行っていました。専門試験は水産白書を繰り返し読むことで勉強しました。面接は大学のキャリアセンターで数回模擬面接をしていただき対策しました。

□ 試験結果

英語加点：なし

Success !!

数学に対する苦手意識が強かったため、数的処理の勉強だけは3年生の夏から行いました。勉強を始めた頃はボロボロでしたが、本番までにある程度得点できるようになったので早いうちに対策を始めてよかったです。

Failure ...

政策論文の対策を一切行わなかったため、本番での時間配分に失敗し、制限時間内に書き終えることができませんでした。合否が出るまで、論文の足切りに引っかかって落ちたのではないかとかなり不安でした。

□ 利用してよかったもの

- 『水産白書』
- 『数的処理がみるみるわかる！解法の玉手箱』
- 『水産海洋ハンドブック』

□ 各試験の具体的な対策

教養

数学がとても苦手だったので、教養の勉強時間のほとんどを数的処理の対策に費やしました。『数的処理がみるみるわかる!解法の玉手箱』という参考書を頭から解き進め、解けなかつた問題に付箋を付けて1周しました。その後は付箋のついている問題だけを解きなおし、解けたら付箋を外す…という流れで解ける問題を着実に増やしていました。

専門1次

水産経済学・水産経営学、漁政、漁業学・水産資源学、水産海洋学・水産環境保全、水産一般

専門1次は『水産白書』を繰り返し読むことで対策しました。私は手を動かした方が頭に入るタイプなので、白書の中で重要だと思った箇所をノートにまとめ、外出先などでそのノートを読むということもしていました。

専門2次

水産海洋学、水産環境保全

専門2次は『水産白書』に加えて、『水産海洋ハンドブック』を使い勉強しました。自分の選択する科目の過去問を確認し、過去問で出題された箇所について書いてあるページに付箋を貼りました。付箋を貼ることで分厚い水産海洋ハンドブックのどのあたりから多く出題されているのかが可視化され、効率的に勉強することができました。

政策論文

政策論文は過去問の内容を少し確認した以外、何も対策を行いませんでした。結果、本番で時間配分を失敗してしまい、足切りにかかってしまうのではないかという不安を抱えることになったのできちんと対策しておくべきだったと反省しています。

人事院面接

人事院面接は大学のキャリアセンターでの模擬面接に参加して対策しました。基本的に面接カードに沿った質問をされるため、面接カードを丁寧にわかりやすく作成するよう心掛けました。